

海外安全対策情報

1 治安・社会情勢

国内の治安が最も悪化したと言われた2011年以降、全般的に犯罪件数は回復傾向を示していたが、2015年以降殺人件数は増加に転じており、2018年7月には過去最多といわれる殺人件数2,603件を記録した。

また、犯罪総件数も9月までで1,383,099件、年換算1,844,132件であり、統計史上最悪の結果となった2017年の件数を超える勢いであることから治安の改善は認められない。

連邦政府による治安対策は、犯罪組織主要人物の検挙等一定の成果をあげているものの、依然として犯罪組織間の抗争が多発しており、白昼路上での銃撃事件や治安当局への襲撃事件が発生している。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 全国犯罪傾向

SEGOB（メキシコ内務省）が発表した第1四半期（7～9月）の犯罪発生件数報告によれば、総犯罪発生件数は469,887件と前期（4～6月）の470,066件と比較しほぼ横ばい傾向である。犯罪種別の内訳は以下のとおり。

ア 窃盗	114,143件	(前期比 0.8%増)
イ 殺人	7,851件	(前期比 6.2%増)
ウ 強盗	63,790件	(前期比 4.3%増)
エ 性犯罪	10,883件	(前期比 2.1%減)
オ 誘拐	288件	(前期比 21.5%増)

(2) メキシコ市犯罪傾向

メキシコ市においては、第2四半期（7～9月）の総犯罪発生件数は60,869件と、前期（4～6月）と比較して5.0%増加した。犯罪種別の内訳は以下のとおり。

ア 窃盗	20,821件	(前期比 3.7%増)
イ 殺人	315件	(前期比 1.2%減)
ウ 強盗	9,866件	(前期比 13.4%増)
エ 性犯罪	969件	(前期比 24.7%増)
オ 誘拐	12件	(前期比 20.%増)

3 日本企業の安全に関わる諸問題

(1) メキシコ国内全体における邦人被害報告件数は2015年85件から2016年1

33件、2017年164件と増加傾向であったところ、2018年は、9月末までに97件（年換算129件）と減少傾向にはあるが、うち22件の強盗被害（全邦人被害件数の約23%）が含まれてことから予断を許さない状況である。

- (2) 強盗、窃盗等の一般犯罪被害は、メキシコ市を含め昼夜を問わず発生している。公共交通機関である地下鉄、マイクロバス（ペセロ等の扉のついていない乗り合いバス）内でも犯罪が多発しており、流しのタクシー（リブレ）の運転手や、運転手と結託した共犯者らによる強盗事件も発生していることから、それらの交通機関の利用は避けるべきである。その他、比較的安全とされている携帯電話アプリを使用して手配したタクシー乗務員による強盗事件等の報道も散見されていることから、その利用には十分注意し、乗車前に運転手の氏名・車両番号を確実に確認する必要がある。

また、側道に大型のロードコーンを置いて故意に渋滞を引き起こしたうえ、停車中の車両の運転手や同乗者に対してけん銃様の物で脅して金品を奪うという強盗事件も発生している。停車時は前方車両との車間距離を空け、現場から離脱できるスペースを確保すること等を考慮する必要がある。

車上狙いの被害も多く、たとえ短時間の駐車であっても車内に荷物を置くことのないように注意すべきであり、置き引きやスリについても、犯人は様々な方法で被害者の隙をついて犯行に及ぶことから、所持品は常に肌身離さず監視下に置くよう注意する必要がある。

- (3) 強盗傷害に至ったケースとしては、観光地の市街地において夜間単独で行動中、車で乗り付けてきた3人組の犯人に対し抵抗したところ、殴る蹴る等激しい暴行を加えられた上に所持品を奪われるという被害があった他、過去には強盗犯の手を振り払ったところ、刃物で頭部を切りつけられて重傷を負ったケースや、大声をあげる等して抵抗したため暴行を受け負傷したケース、奪われた被害品を取り返そうと抵抗したため暴行を受けたケースがある。更には、バイク利用の2名組の犯人から強盗の被害に遭い、近隣の車両に助けを求めて追跡しようとしたところ犯人から発砲されたケースもある。

当地における強盗事件の殆どにけん銃や刃物等の凶器が用いられており、犯人の要求を拒否し抵抗するなどした場合、殺傷される危険性が極めて高い。強盗事件等に遭った場合は、抵抗する・大声をあげる・逃げる等犯人を刺激するような行動はくれぐれも避ける必要がある。また、これらの強盗被害は、時間帯を問わずに発生しており、昼夜を問わず屋外における行動については、細心の注意を要する。

- (4) 犯罪組織による殺人等凶悪犯罪の被害者は、大半が敵対する組織や治安当局であり、日本企業や在留邦人が直接の攻撃対象とされているわけではない。しかし、犯罪組織の対立抗争が激化した地域では、それに伴い治安が著しく悪化する場合もあり、犯罪

組織間の抗争がレストラン等の公共の場で行われた場合には、邦人が巻き込まれる可能性も否定できない。

実際にメキシコ市内の比較的治安が良いとされている地域においても散発的に発砲事件や殺人事件が発生しているほか、著名な観光地のすぐそばの飲食店においても麻薬組織がらみの銃撃戦が起き多数の死傷者をだしている。

- (5) 国内では依然として富裕層を対象とした誘拐事件が発生している。出勤・退勤の時間やルート、飲食や買い物等の立ち寄り先を含めた外出時の行動のパターン化を避ける他、個人情報への厳重な管理を行い、滞在先ホテルや住居の選定についてはセキュリティーレベルを十分に考慮し、夜間の一人での外出を避ける等の対策が求められる。

特に夜間の移動については、例え高速道路を使用したとしても高い危険性が伴うことから避けるべきである。また、山間部で速度が落ちる箇所や、休憩所での一時停車中なども狙われやすいことから十分に注意する必要がある。

また、被害者を、けん銃等凶器を使用して脅迫・拉致し、短時間のうちに複数のATMで現金を引き出させて強取する特急誘拐も発生している。車の乗降時や停車時に狙われる可能性があることから、常に周囲の状況を確認して不審者の発見に努め、被害を未然に予防することが肝要である。

4 邦人被害の犯罪発生状況

邦人被害一覧（2018年1月～9月）参照